

石川島記念病院 梶原 沙也香(放射線技師／放射線科)

- 功 績** 1年目ながら、カテーテル治療において自立して放射線技師業務をこなすまでに成長し、これまで当院では、水曜日は夜間帯の緊急カテが対応不可能であったが、4月から梶原が毎週1回の当直メンバーに入ったことで、対応可能となり、当院がより地域密着型としての病院に近づけた功績。
- 推 薦 者** 安田 和矢(放射線技師／放射線科科長)
- 推 薦 理 由** 梶原は、地域において当院に求められている役割をしっかりと認識し、そのために自身が何をしなければならないかと考え、行動した結果、カテ時の放射線技師業務の早期習得を実現し、夜間の緊急カテ対応へとつながりました。彼女の当院の理念達成のための強い課題意識を評価して頂きたく、理事長賞に推薦いたしました。

内 容

梶原は、昨年度、学卒新人として当院放射線科に入職してきました。新人のため初めは分からないことばかりでしたが、この1年で一般撮影・CT・カテ室と学び、カテーテル治療時の放射線技師業務については、循環器内科の鶴見医師より独立立ちの許可も出て、平成29年2月に1回、3月に1回夜間の当直にも入りました。

今年度の4月からは他の放射線科職員と同様に毎週1回の当直と土日の待機メンバーとして活躍しています。

カテーテル治療時の放射線技師の仕事は、装置の立ち上げ準備、カテーテル治療のための医療ツールの準備、被ばく線量のモニタリングなど一般撮影時とは異なる手順が求められます。

梶原の指導を担当した佐野さんによると、梶原は普段から細かいことによく気づき、先回りして動ける俊敏性を備えた人材であるとのことで、通常独立立ちまでに1年程度かかるカテーテル治療時の放射線技師業務を、3か月ほど早く自立して行えるようになりました。

また梶原本人としても、当院がより高度心臓病専門病院として地域に密着していくためには、夜間の緊急カテの体制を整えなければという意識が常に頭にあり、そのため自身の早期の業務習得は優先課題であったと振り返っています。

梶原の今後の抱負は、まだ一度も経験のない夜間の緊急カテを想定して、少しでもスムーズに放射線技師業務を行えるようにすることだそうです。